

令和 6 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立 古市 小学校

令和 7 年 3 月 6 日

現状と課題

令和 5 年度「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より子どもに寄り添い、保護者との連携を丁寧に行っている。「いじめアンケート」を毎月行い、子どもの実態把握に努めてきた結果、学校が楽しいと感じており、いじめや不登校は少なく安心・安全な教育活動に取り組むことができている。一方で、自尊感情の向上は十分とは言えず、本校の長年の課題となっている。

学力・体力面においては、小学校経年調査の結果分析から思考・判断・表現の項目では大阪市平均を上回っていたが、結果として同一母集団での比較で大阪市平均の 7 割に満たない児童の割合が増加した学年が多くかった。また、運動やスポーツをすることが好きな児童の割合が低学年では 70% となっている反面、高学年では 57% と低い割合になっている。学年間の系統を意識した学力体力向上の取り組みは重要である。

学習者用端末の活用に関しては、全学級で取り組んでいるが、取り組みの頻度は学級間・学年間でばらつきがみられる。

中期目標**【安心・安全な教育の推進】**

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90% 以上にする。 (1)
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。 (1)
- 令和 7 年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90% 以上にする。 (2)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50% 以上にする。 (4)
- 令和 7 年度小学校学力経年調査の平均正答率 7 割 以下の児童を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。 (4)
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに 1 を上回るようにする。 ※全国平均を 1 とした時の割合 (5)
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 70% 以上にする。 (5)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90% 以上にする。 (6)
- 1か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超える、及び、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を 70% 以上にする。 (7)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

- 令和6年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。（1）
- 令和6年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。（1）
- 令和6年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。（2）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。（4）
- 令和6年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の正答率が市の平均の7割に満たない児童を学校全体の15%未満にする。（4）
- 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに1にする。※全国平均を1とした時の割合（5）
- 令和6年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。（5）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕（6）
- 令和6年度末の校内調査の「毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。（6）
- 1か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えない割合を各月80%以上、1年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする割合を70%以上にする。（7）

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立古市小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を <u>85%以上</u> にする。 (1) ○ 令和 6 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。 (1) ○ 令和 6 年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、<u>85%以上</u> にする。 (2) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。 ・ 指導の経過を記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。 ・ また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーニング会議を毎月行い、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。 ・ 「いじめアンケート」を実施し、いじめの解消率を 90% にする。 ・ 校内調査における「いじめはいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上 にする。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな不登校児童の割合を減らすため、「いいとこみつけ」「スクリーニングシート」を活用する。複数の視点で支援を必要とする児童を早期に把握し、適切な支援を行う。 ・ 欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、学年会で取り上げ、さらにスクリーニング会議で報告することで、学校全体で情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。 ・ 原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への支援や働きかけが必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」や聞き取り等、事象に応じた的確な取り組みを行う。 ・ 学校に来にくい児童の居場所を確保し、安心して学校生活を送れる手立てや働きかけを計画的、継続的に行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員が「いいとこみつけ」「スクリーニングシート」を活用する。 	B

- ・スクリーニング会議を毎月行い、不登校傾向が認められた児童は、学校全体で情報を共有し、全教職員が連携して問題の未然防止・早期発見を徹底する。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習や社会体験学習、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実践する。
- ・「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいとこみつけ」などの活動を各学年で取り組むとともに、芸術鑑賞会や、委員会活動で花を育てるこ^トを通して、豊かな心の育成を図る。

指標

- ・令和6年度末の校内調査では、低学年は「たてわり班活動（オリエンテーリング・児童集会など）では楽しく活動できましたか」、高学年は「たてわり班活動（オリエンテーリング・児童集会など）では、他の学年のことを見て活動できましたか」という項目について、肯定的に答える児童を70%以上にする。
- ・令和6年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。
- ・「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいとこみつけ」などの活動を各学年で計画し実践して、取り組んだ内容をまとめる。
- ・隔年で芸術鑑賞と音楽鑑賞を学校行事として設定し、情操教育を行う。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】について

- 令和6年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。という項目では、3年は90.4%、4年は93.1%、5年は87.0%、6年は85.4%、3年～6年88.9%であり、目標を達成できた。
- 令和6年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。という項目では、前年度の改善率は、25%、今年度の改善率は75%（12月末時点）で前年度より増加し目標を達成できた。
- 令和6年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。という項目では、低学年は95%、高学年は94%、全体は95%で目標を達成できた。

【取組の進捗状況】について

取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】

- ・スクリーニング会議を毎月行い、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を全職員で共有した。全職員で共有することで、学校全体で各児童を見守ることができた。
- ・「いじめアンケート」を実施し、いじめの解消率を90%にする。という項目では、いじめ解消率は92.3%（12月末時点）となっており90%を上回った。
- ・校内調査における「いじめはいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。という項目では、肯定的に答えた児童が98%となった。年々この数値は上がっており、児童の中のいじめに対する意識が高まっている。毎月「いじめについて考える日」を設定しており、学校長の児童朝会での講話や各学級でもいじめについて考える機会を増やすことができた。

取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】

- ・学年会では「スクリーニングシート」を活用し話し合うことができた。
- ・スクリーニング会議では、「いいとこみつけ」や「児童生徒ボード」を活用し、児童の顔写

真や欠席率、心の天気の履歴を基に児童の実態を把握し情報を全体共有することができた。また不登校傾向が認められた児童は、学校全体で情報を共有し、全教職員が連携を図った。不登校傾向が認められた児童には担任だけでなく、養護教諭や他の教員が連携をして見守り、関わることができた。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・ 校内調査の低学年は「たてわり班活動では楽しく活動できましたか」、高学年は「たてわり班活動では、他の学年のこと考えて活動できましたか」という項目について、肯定的に答える児童が低学年93%、高学年は90%であり、目標数値を大きく上回った。取り組みの成果として、休み時間も自発的に異学年で遊ぶ姿も見られた。
- ・ 「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合は95%で目標を上回ることができた。
- ・ 各学年で実施した「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいとこみつけ」などの活動内容
1年・2年　いいとこみつけ
3年　遠足でごみ拾いの清掃活動・人権の取り組み・いいとこみつけ
4年　遠足での清掃活動
5年　キッズマートに関連した地域貢献・委員会活動（菖蒲の花の栽培など）
6年　清掃活動・委員会活動（菖蒲の花の栽培など）
- ・ 今年度は計画通り音楽鑑賞を実施できた。

次年度への改善点

【目標設定】について

取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】

- ・ 特になし

取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】

- ・ 「いいとこみつけ」の活用では、情報の入力が学級担任中心になっており、どのようにして担任以外の様々な視点でみることができるのかという課題点が挙げられた。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・ 校内調査の低学年は「たてわり班活動では楽しく活動できましたか」、高学年は「たてわり班活動では、他の学年のこと考えて活動できましたか」という項目について、今年度目標数値を大きく上回ったので、次年度は70%から80%に上げる。
- ・ 「他者への奉仕（ボランティア活動）」につなげるために、来年度は校外オリエンテーリングでのクリーンタイムを全児童で取り組むようにする。

大阪市立古市小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>45%以上</u> にする。 (4) ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の正答率が市の平均の 7 割に満たない児童を学校全体の <u>15%未満</u> にする。 (4) ○ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに <u>1</u> にする。 ※全国平均を 1 とした時の割合 (5) ○ 令和 6 年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を <u>65%以上</u> にする。 (5) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近くの友達と話し合う「ぼそぼそタイム」や学級全体で話し合う「深めよう広げようタイム」を取り入れた授業を行い、話し合い活動の充実を図る。 ・ 学習の最後に振り返りの時間を設定する。振り返りの話型を活用しながら学習の振り返りを行い、児童が学びの深まりを感じられるようにする。 ・ 「児童が話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるような授業づくり」を教員が意識して行い、どのような実践をしたか交流する機会を設ける。 ・ ドリルやプリント、タブレット学習など、児童の実態に応じた教材を活用する。また、教員が児童の学習の進度を把握し、個に応じた支援をしていく。 ・ 誰一人取り残さない学力の向上を達成するために、個人懇談期間中に担任外が中心となって学習タイムを設定し、学習の取りこぼしを減らすようにする。 ・ 教員の授業力向上を目指して、積極的に研究授業・公開授業を参観したり、研修会に参加したりする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>45%以上</u> にする。 ・ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の正答率が市の平均の 7 割に満たない児童を学校全体の <u>15%未満</u> にする。 ・ 年 2 回、個人懇談期間中に学習タイムを実施する。 ・ 校内や校外での研究授業・公開授業、研修会に 10 回以上参加する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の実技研修を行なったり、運動カードを活用したりして体育の授業を実施し、運動が苦手な児童にも運動が好きになる授業づくりに努める。 	B

- ・異学年で体を動かす行事を行うことで、楽しみながら運動ができるようにする。
- ・スポーツテストの記録を児童に渡すことで、運動に対する意識を高められるようにする。
- ・保健指導や栄養指導により基本的な生活習慣を身に着け児童の健康の保持増進を図る。

指標

- ・教員の実技研修を年に1回以上行う。
- ・年2回以上の食育指導を行う。
- ・学期に1回健康週間を行う。
- ・令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに1にする。※全国平均を1とした時の割合
- ・6年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】について

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は38.5%と目標に届かなかったが、肯定的に回答する児童の割合は74.7%であった。日々の取り組みを通して、話し合い活動が活発になったり、振り返りを書くことで自分の考えをまとめることに慣れてきたりと、児童により変化が着実に見られる。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における正答率が市の平均の7割に満たない児童の割合は、国語17%、算数13%で、そのうち国語と算数のどちらも7割未満の児童は6%であった。
- 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合は、男子1.07、女子1.02と、ともに1を超えた。
- 令和6年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は67%と目標を達成した。

【取組の進捗状況】について

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・年度当初にハンドサインや話型、振り返りの形式について学校全体で統一し、これらを活用しながら、近くの友達と話し合う「ぼそぼそタイム」や学級全体で話し合う「深めよう広げようタイム」を積極的に授業に取り入れるようにしてきた。その結果、話し合い活動が児童にとって身近なものになり、意欲的に手を挙げて発表する児童が増えたり、発表が苦手な児童でも近くの友達に自分の考えを話したりと、話し合い活動が活発になってきた。
- ・2学期からは「ぼそぼそタイム」や「深めよう広げようタイム」という掲示物を活用することで、児童も教員も授業の中で「話し合いの時間」「考えを深めたり広げたりする時間」ということの意識がさらに高まった。
- ・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対する回答の割合は以下の通りであった。

	低学年	高学年
思う	45%	30%
どちらかといえばそう思う	39%	44%

肯定的に捉えている回答は多いものの、最も肯定的な「思う」と回答している割合は高学

年で 45% に届かなかった。

↓

以上のことから、今年度の取り組みを通して、話し合い活動や振り返りに対する意識が高まり、態度が育ってきたものの、考えが深まる・広まるということが児童にとってイメージしにくいようで、児童が考えの深まりを実感できるような手立てが必要である。

- 教職員間で、「児童が話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるような授業づくり」についての実践を交流し、指導につなげることができた。
- 児童の実態に応じて、ドリルやプリント、タブレット学習などの教材を活用することができた。
- 個人懇談期間中にスペシャル学習タイムを設定し、算数科を中心に、児童の苦手なところを重点的に学習の補充を行うことができた。また、普段から放課後や休み時間などに、個別の支援を行うようにしてきた。
- 経年調査における国語及び算数の正答率が市の平均の 7 割に満たない児童の割合は以下の通りであった。

令和 6 年度

	3 年	4 年	5 年	6 年	3~6 年
国語	21%	13%	18%	16%	17%
算数	15%	9%	13%	15%	13%
国語と算数のどちらも 7 割未満の児童	10%	4%	7%	4%	6%

令和 5 年度（参考）

	3 年	4 年	5 年	6 年	3~6 年
国語	12%	17%	1%	14%	10%
算数	13%	19%	19%	20%	17%
国語と算数のどちらも 7 割未満の児童	5%	13%	0%	10%	13%

国語と算数のどちらも 7 割未満の児童の割合は昨年度の 13% から 6% に減少した。教科別に見ると、国語は全体で 7% の増加、算数は 4% の減少であった。算数はスペシャル学習タイムでの補充に加え、専科と担任の複数体制で支援にあたることができたのも一つの要因と考える。

- 研究教科である体育科の研修会や研究授業だけでも 10 回以上設けられ、体育科以外でも低・中・高学年部に分かれて互いに公開授業を参観するなど、研修の機会が多くあり、指導力向上につなげることができた。

取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- 教員の実技研修を年に 1 回以上行い、教わったことを活かしたり運動カードを活用したりして体育の授業を工夫しながら運動が苦手な児童にも運動が好きになる授業づくりに努めた。
- ゆうゆうタイムを通して異学年で運動を楽しむことができた。
- 年 2 回以上の食育指導では、学年の発達段階に応じた指導を行った。
- 学期に 1 回健康週間では、パソコンで児童が健康に関するアンケートを行うことで学校全

体の結果をデータ化し実態がわかるようにした。

- ・令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに1にする。※全国平均を1とした時の割合に達することができた。
- ・6年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にすることができた。肯定的も加えると80%以上になることや日々の外遊びの様子、昨年度の結果からも運動やスポーツを楽しむ児童が増えた。

次年度への改善点

【目標設定】について

(課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。)

取組内容①

- ・話し合い活動では、まずは「ぼそぼそタイム」で、自分の考えを近くの友達に伝える機会を大切にし、そこから全体での「深めよう広げようタイム」へつなげていくようする。
- ・児童自身が自分の考えの深まりや広まりを実感できるように、「ぼそぼそタイム」や「深めよう広げようタイム」という黒板に貼る掲示物を全クラスで活用していく。これを毎日使うことで、教員の話し合い活動に対する意識も高めていくようする。
- ・授業の展開を工夫し、学習の最後には振り返りの時間を確保するようにして、振り返りを通して児童が学びの深まりをさらに感じられるようにする。
- ・児童のつまずきを把握し、担当教員間で情報共有して、全体や個別の指導に活かすようする。

取組内容②

- ・運動カードの活用に学年で差がある。冬に行う縄跳び、持久走だけではなく活用していくように体育部を中心に取り組んでいく。
- ・体育の時間で音楽を取り入れるなど、各学年にあった工夫をする必要がある。
- ・夏場の暑さもあり、外遊びする児童が少ない。休み時間、運動を楽しめるよう教員の声掛けや遊びの工夫が必要である。
- ・体育の研究授業を行った後、スポーツに対してのアンケートをとり考察し今後の体育の授業に活用していく。また、研究授業後アンケートすることで、児童の振り返りになると考える。
- ・今後行われる、ゆうゆうタイムを通して、遊びの幅を増やしたりスポーツをすることが好きだと感じられたりするように取り組む。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の <u>50%</u>以上にする。〔ただし、学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 (6) ○ 令和 6 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を <u>60%</u>以上にする。(6) ○ 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えない割合を各月 80%以上、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を <u>70%</u>以上にする。 (7) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週 1 回以上、朝学習においてデジタルドリルを活用する。また、3 ~ 6 年生においては、デジタルドリルを活用した振り返り学習や家庭学習を実施する。 ・ 授業では、デジタル教科書や児童用端末を積極的に使用し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適な学びや創造性を育む学びを目指す。 ・ 生活科、社会科等の調べ学習を行う際は、インターネットを活用したデジタルコンテンツなどを積極的に利用し、児童用端末を活用する機会を増やす。 ・ 教員一人一人のスキルアップや学校の組織力向上を図るために、ICT 活用に関する校内研修を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級や授業にて、デジタルドリルを活用した朝学習などを週に 1 回以上行う。 ・ ICT 活用に関する校内研修を年に 1 回以上行う。 ・ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の <u>25%</u>以上にする。〔ただし、学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務情報システムの「時間外勤務実績」を毎月の職員会議でチェックし、時間外勤務に関しての意識を改善していく。 ・ 会議を短くするために、伝達事項・連絡は PC 上で読み、質問や意見がある場合、担当者に伝え、全体で共有するようにする。そのために、全員が SKIP 掲示板や outlook、ミマモルメを毎日開いて確認するように徹底する。 ・ 時間外勤務の時間を減らせるよう、時差出勤の制度を利用したり、専科制や教科担任制を活用して効率的に準備をしたりするなど、時間の使い方を工夫する。 ・ 全体の仕事量減のため、学校行事の精選を行う。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 30 時間を超えない割合を各月 70%以上にする。 	

- ・ ゆとりの日を毎月 1回以上設定する。
- ・ 会議や研修などのない日を年間 35 日以上設定する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】について

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は、1 月末の時点で 54.7% となっており、達成することができた。
 - ・令和 6 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合は全学年合計で 71% となり、達成することができた。ただし、低学年は 83% だったが、高学年は 59% となり、わずかながら目標を下回る結果となった。
 - ・1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えない割合は 1 月までのすべての月で 80% を上回ることができた。1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合（基準 1）は 78.79% となり、達成することができた。
- ↓
- すべての目標を達成することができた。

【取組の進捗状況】について

取組内容①

- ・週 1 回以上、デジタルドリルを活用した朝学習に取り組んだ。
 - ・学習者用端末を活用した日数の調査は 2 学期に低下はしているが、目標は達成している。「毎日、学習者用端末を活用している」の項目では、低学年は大幅に達成、高学年は 1 学期の調査では達成、2 学期の調査ではあと 1 % で未達成になっている。
 - ・教員向けの ICT 研修（デジタル採点について）を 1 回行った。
- よって本年度の目標は概ね達成できた。

取組内容②

- ・職員会議前の時間外勤務実績チェックや時差出勤制度の活用など、勤務時間への意識が高まっている。
 - ・SKIP や teams 等を使用しての連絡が増えてきている。また、職員会議は検討事項と連絡事項に分けて行うことで、会議の時間を短縮することができている。職員朝会は毎回実施ではなく必要な時だけ実施し、朝の時間を児童に使えるようにできている。
 - ・17 時セットの「ゆとりの日」は毎月 1 回以上設定できている。18 時セットの「ちょいゆとりの日」を含めて、毎週水曜日に設定することができている。ただし、2 月は「ゆとりの日」の設定がなく、「ちょいゆとりの日」のみの設定になっていた。
 - ・会議や研修を入れない「NKD（ノーアクセスデイ）」は 2 月末までで 26 回設定できたが、前年度の同じ時期より 3 回少なかった。
 - ・次年度学校行事に関する話し合いを全教員で行ったことで、次年度以降の行事の精選につながったのではないか。
- ↓

これらの結果、1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 30 時間を超えない割合に関しては、1 月末までで 68.4% となっており、わずかながら指標を下回る結果となった。しかし、この指標の達成を目指して勤務時間への意識を高めてきたことが、年度目標の達成に繋がったのではないかと考えている。

次年度への改善点

【目標設定】について

取組内容①

- ・「心の天気」や「ナビマ」の取り組みを習慣化し、使用率を上げていく。
- ・調べ学習や話し合い活動、発表などでも ICT を活用していく。
- ・使用率が上がることにより、端末の不具合の発生も増える傾向にある。来年度は予備端末が大幅に増えるため、対応が可能である。
- ・引き続き教職員のための ICT 研修や、児童のための情報モラルについての授業に取り組んでいく。
- ・児童集会をリモートにし、8:35 から始めることで、端末を使用して「心の天気」を入力する時間を確保できるし、1 時間目の授業時間も確保できるのではないか。

取組内容②

- ・行事の精選を進めていく。次年度以降も、全教員での学校行事に関する話し合いを継続していく。
- ・会議や研修を精選し、「NKD」を増やせるようにしていく。
- ・学校行事や会議・研修だけでなく、学級内の業務で減らせることは減らし、業務の効率化を図っていく必要がある。